
娘、お盆に帰る

赤いからす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

娘、お盆に帰る

【Nコード】

N3684C

【作者名】

赤いからす

【あらすじ】

高校を中退すると黙って家を飛び出した娘だが、一年に一度、必ずお盆には帰ってきた。年々、身につけているものは派手になり、ついにはハワイ旅行にまで連れていってくれるという。しかし、そのハワイ旅行から一年後、娘はとんでもない場所から電話をかけてきた。

（前書き）

意外な結末に期待してください。

娘は高校を中退すると家出した。
とめる暇なく最低限の荷物を持ってどこかへ行ってしまった。

しばらく音沙汰がなかったので警察へ搜索願を出そうと妻に相談すると返事は素っ気なかった。
「そのうち、帰ってくるわよ」

妻と娘に会話はなかった。言い争いやケンカしたところを見ていないが、仲むつまじい姿は記憶にない。

自分が覚えているかぎり、娘の服を妻が黙って町内会の会合に着ていったことが発端だった気がする。娘も娘だが一言も謝らない妻もどうかしてる。意地の張り合いがこじれると収拾がつかない。

特に女同士は…。

一年後、突然、娘が帰ってきた。
最初に娘を見たとき、誰だかわからなかった。
眩しいくらいの金髪と化粧も服装も派手でまるで別人だった。

「いま、どこに住んでるんだ？」
おれは心配になって訊く。

「関東地区」
娘はメンソールのタバコをくわえながら答えた。

「食べていけるのか？」

「大丈夫」

「仕事してるのか？」

「もちろん」

「なんの仕事をしてるんだ？」

「キャバ嬢」

「店の名前は？」

「もういいでしょ！」

娘はうんざりした顔でせんさくされることを嫌った。

「何しに來たの？」

妻が冷たい麦茶をお盆にのせておれの隣に座った。

「おい、せつかく帰ってきたんだから、そんな口の利き方するなよ」
おれは妻をたしなめた。

「お盆だから帰ってきたんじゃない。いまの時期は人がいないから
お店は暇なの」

娘は意外にも妻の問いかけに答えた。本当に久し振りに二人が会
話したところを見た。

「これ、仏壇に上げて」

娘は大手デパートの紙袋をテーブルにのせた。老舗で有名な和菓
子屋の包みが見えた。

「いつから信仰心が芽生えたの？」

妻の嫌味な一言におれは肝を冷やしたが、娘は「あら、昔からよ」
と素っ気無く返答した。

そういえば確かに娘は祖父や祖母の命日がくると「お花は？」と

か「線香は？」とか、さかんに気にする素振りを見せていた。祖父や祖母にかわいがられていたからだろう。

娘はお盆になるとかならず家に帰ってきた。

年々、指輪やネックレスなどの宝石類は大きくなり、去年は顔半分くらい隠すサングラスをはめて赤いスポーツカーで帰省してきた。

それに高層マンションに引っ越したことも自慢していた。娘はお小遣いをあげるとすぐに使ってしまう浪費癖がある。幼い頃から派手な生活にあこがれていたのは薄々感じていた。

親から援助を受けず、自立して生活しているのだから文句は言えない。

そして今年はお盆の数日前に娘から電話がかかってきた。

「あのね。海外旅行に二人を連れていってあげる」

娘の声は弾んでいた。

「それはありがたいが…」

「ハワイよ。心配しないでお金は全部私がもつから」

一方的に押し切られ、家族三人でハワイ旅行に行くことになった。

・
・
・

さらに一年後…夏の暑い日にけたたましく電話が鳴った。

「はい、梶山です」

「あ、私」

娘からだった。

「どうした？」

「どうした？はないでしょう。娘が久し振りに電話をかけてきたの

に……」

「元気にしてるのか？」

「まあね」

「いま、どこにいるんだ？」

「えっ？」

娘が上擦った声で訊き返す。首をかしげている画^えが頭に浮かぶ。

「まあ、声が聞けただけでも安心したよ。じゃあな」

「ちよつと、待って、いま私がいるの……」

会話の途中で電話を切った。

「誰から？」

台所から妻が訊いてきた。

「美佐子からだよ」

「また冗談ばかり、美佐子はハワイの海の底じゃない」
妻が笑いながら言った。

了

（後書き）

ホラー長編で「無期限の標的」「狂犬病予防業務日誌」とホラーの短編で「面相筆」「人類、最後の言葉」「娘、お盆に帰る」「水たまり」など多数投稿しています。

恋愛の短編でも「木漏れ日から見詰めて」という作品がありますので読んでくれた方は感想と評価をよろしく願います。コメントを必ず返信します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3684c/>

娘、お盆に帰る

2010年10月31日13時53分発行